

小学校外国語活動研修会

令和2年度から、小学校3・4年生で年間35単位時間の「外国語活動」、5・6年生で年間70単位時間の「外国語科」が本格実施となります。8月6日大沢野生涯学習センターにおいて、新学習指導要領への対応と指導力のさらなる向上を目指し、各小学校の先生方の参加による研修会を行いました。今年度は、富山外国語専門学校の上田為久校長先生による発音演習、外国語支援講師の鍛治淳子先生、田中香先生とALTによる模擬授業に加え、小グループでの指導案づくりとミニ模擬授業を行いました。

様々な活動の紹介、分かりやすい指示の出し方、子どもをほめる表現、クラスルームイングリッシュの活用方法等、各校での実践について情報交換をしたり、ALTからのアドバイスを受けながら、英語を使う必要感のある活動について考えたりして、指導案をつくり、模擬授業を行いました。また、模擬授業後には、授業づくりのポイントや日々の悩みについて、活発な意見交換が行われました。

子どもの学ぶ意欲を高め、スモールステップでの学習を積み上げ、そして何よりも楽しく笑顔で授業に取り組むことが大切であるとの声が多く聞かれました。



<支援講師による模擬授業>



<指導案づくりとミニ模擬授業>

プログラミング教育実践講座

令和2年度から始まる小学校でのプログラミング教育に対応できる教員を育成するため、特別非営利活動法人 みんなのコードの主任講師 福田晴一先生をお迎えして、8月7日より「プログラミング教育実践講座」を開催しています。

1回目の講座では、まず、小学校でプログラミング教育が始まる背景や、新学習指導要領と「プログラミング教育の手引き」を基にプログラミング教育の概要について研修しました。さらに、教材体験（アンプラグド教材、Hour of Code、プログル、micro:bit）や模擬授業（小学3年生を想定した総合的な学習の時間の実践事例「コンピュータと私たち」）を行いました。受講者は、講義、演習を通して、プログラミングの授業イメージをもつことができました。また、2回目の講座では、教材体験（Viscuit）と、授業構想についてのグループ協議を行い、グループ内で考えを出し合うことで、それぞれが授業イメージをさらに広げました。

受講者は、研修での学びを生かして、2学期に各校でプログラミングの授業に取り組み、3回目となる12月26日には成果と課題を報告します。発表事例については、後日市内小中学校に配付予定です。来年度の小学校プログラミング教育スタートに向け、本講座における65名の先生方の挑戦を、是非、参考にしてください。



<授業構想についてのグループ協議>

【参考】総合的な学習の時間の実践事例「コンピュータと私たち」（全8時間）

	学 習 活 動
第1次 (1時間)	・身の回りには、コンピュータが使われている道具がたくさんあることに気づく。 ・コンピュータが今のくらしを支えていることを理解し、課題意識をもつ。
第2次 (1時間)	・動きを書いたカードに合わせて体を動かすなどし、コンピュータの特性やプログラミングの基本を理解する。
第3次 (2時間)	・コンピュータを使って、プログラミングを体験する。
第4次 (4時間)	・コンピュータが使われていない道具（机、鉛筆等）にコンピュータが結びつくと、どのような道具になるか考える。（どのような機能があると便利か、生活や社会にどのような変化をもたらすか） ・考えた道具について、図や文で表現し、発表し合う。